

# 舞鶴港 港湾業務艇

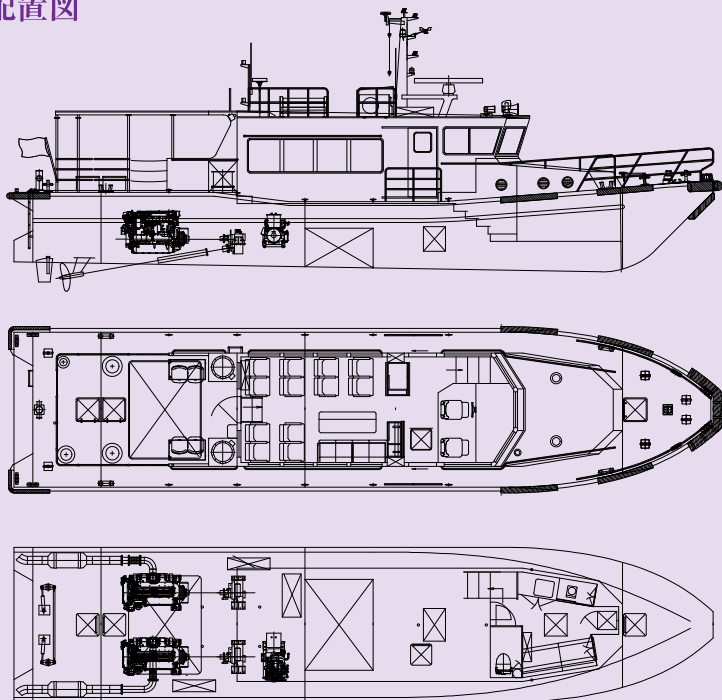
## みずなぎ

「船名揮毫 京都府知事 西脇 隆俊」

### ■ 船体要目

|        |            |      |                               |
|--------|------------|------|-------------------------------|
| 船質     | 耐食アルミニウム合金 | 主機関  | 4サイクル高速ディーゼル機関                |
| 全長     | 18.50m     |      | 450kW (612PS) / 2,132rpm × 2基 |
| 型幅     | 4.10m      | 航海計器 | マルチビームソナー                     |
| 深さ     | 1.75m      |      | 音響測深機                         |
| 計画満載喫水 | 0.70m      |      | レーダー                          |
| 総トン数   | 19トン       |      | GPS航法装置                       |
| 巡航速度   | 28.0ノット    |      | サテライトコンパス                     |
| 最大搭載人員 | 船員 2名      |      | AIS(船舶自動識別装置)                 |
|        | 旅客 12名     |      | マルチファンクションディスプレイ              |
|        | その他 12名    |      | 自動操舵装置                        |
|        | 計 26名      |      | 風向風速計                         |

### ■ 一般配置図



京都府港湾局 TEL(0773)75-1174  
〒624-0945 舞鶴市宇喜多1105番1

設計・監督 一般社団法人 日本作業船協会 建造 ツネインクラフト&ファシリティアーズ株式会社

# 舞鶴港 港湾業務艇「みずなぎ」



令和5年6月5日進水





# 港湾業務艇 「みずなぎ」 の就航にあたって

この度、京都舞鶴港の巡視や調査を行ってきた「みずなぎ」が生まれ変わることとなりました。

先代の「みずなぎ」は、平成5年の進水以来、30年という長きにわたり活躍してまいりましたが、老朽化が著しく、本船へと任務を引き継ぐこととなりました。

この間、京都舞鶴港につきましては、関西圏唯一の日本海側拠点港としての人流・物流機能、取扱貨物量やクルーズ船の寄港の増加に対応するための港湾機能に加え、大規模災害時のリダンダンシー機能の確保や「みなとオアシス」の登録を契機とした地域の賑わい創出も求められるようになり、その重要性は益々高まっております。

そうした中、新しい「みずなぎ」は、機動性や安全性を改善しており、港湾施設の点検や港湾区域における調査のほか、工事監視・指導、港湾振興活動の支援など多様な業務を一層着実に遂行することが可能となります。

今後とも、「みずなぎ」が京都舞鶴港のさらなる発展を支えるとともに、末永く府民の皆様から愛されますよう、変わらぬ御支援・御協力をお願い申し上げます。

令和5年8月

京都府知事  
西脇隆俊

## 舞鶴港 港湾業務艇「みずなぎ」の業務内容

本船は、港湾施設（岸壁、棧橋、防波堤等）の管理点検、港湾区域内の港湾工事監督指導、各種調査及び許可行為の指導監視等に使用し、事故発生時の対策・支援、振興活動の支援などを行います。

### 「みずなぎ」の特徴

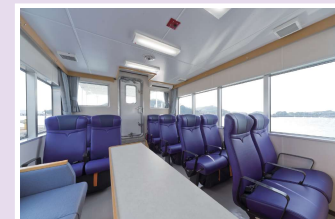
#### 1. 機能の向上

海底地形をマッピングできる最新のソナーを搭載し、調査能力が飛躍的に向上した。また、地形情報のほか航海情報を一つの画面に集約可能なマルチファンクションディスプレイが実現する高い状況把握能力と、速力及び操舵旋回性能の向上によって優れた機動力を発揮する。



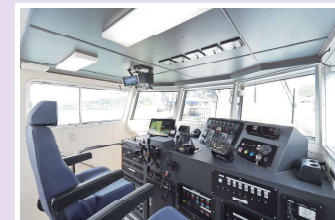
#### 2. 視察業務への対応

広い客室によって快適に乗船することが可能となった。大きな窓を採用するとともに、室内の柱を無くすことで広い視界を確保している。



#### 3. 安全性の向上

レーダーでは確認が難しい気象海象下でも、航海レーダーにAIS情報を重ねて表示することで早期かつ確実に周囲の状況を確認できる。客席下に救命胴衣を収納し、緊急時にただちに使用が可能な状態とし、高い安全性を確保している。



#### 4. 作業性の向上

船尾には海面にアクセスできるハシゴを設け、漂流物等の回収が容易となっている。監視カメラ装置によって安全性の向上を図り、操船しながら効率的な作業指示が可能となっている。



#### 5. 環境への配慮

船体材料は再生可能なアルミニウムを採用し、環境規制に対応した主機関と、軽量化した船体によって速力や燃費性能が大幅に向上している。

